

2020年3月11日

2学年保護者の皆さまへ

伊丹市立伊丹高等学校
PTA会長 上村 由美子
2学年部部长 小倉 しのぶ

第2回 2学年保護者会だより

寒い日が続いていますが、皆さまお元気にお過ごしでしょうか。日頃はPTA活動へのご理解とご協力をいただきありがとうございます。

2月6日（木）に開催しました「2学年保護者会」のご報告をいたします。

（参加人数：保護者102名）

学年主任の先生より（丸尾博志 先生）

厳しい寒さの中、お越しいただきありがとうございます。

今学期は「3年0学期」という位置づけですが、生徒たちに勉強の姿勢が見られるようになりました。英単テストの成績も満点者が激増しています。

今回はリクルートによる進路講演をお聞きいただくことが主な目的ですが、その前におよそ30分間、修学旅行についての報告をさせていただきます。

修学旅行につきましては、お手元の生徒アンケートの結果をご覧くださいますと、満足度が5段階で4.1という高い数字になっております。ベトナムでは優秀な学生との交流など、受け入れ体制も年々充実し、我々の訪問を期待すらされています。ほとんどの生徒が楽しんできたことと思います。

リクルートによる進路講演は、進路決定の方法や大学で学ぶことなど、今まさに必要な内容となっております。疑問点があればご遠慮なくご質問ください。

1. 修学旅行報告（岡本先生より映像による報告）

2. 進路講演

2年進路講演会（リクルートマーケティングパートナーズ 上村 佳澄 様）

「自分に合った進学先の選び方」と題して、自分と向き合って進路を考える講演をしていただきました。

●なぜ、進学するのか？

・進学するということは「社会に出て必要な力を身につけること」である。これからの社会の変化として①グローバル化、②技術開発の進化などが挙げられる。これらの専門知識はもちろん大事だが、さらに大事なものは「伝える力・聞く力・働きかける力・協力する力・柔軟に対応する力・考え抜く力・

新しいものを生み出す力」である。

●大学での学びで力がつく理由

- ・大学の授業には講義だけでなく、ディスカッション・ゼミ・グループワーク・フィールドワークなど様々なものがある。これらの授業では「自分から進んで学ぶ」姿勢が大切である。
- ・何を学んだのか（学部）やどこで学んだのか（学歴）だけでなく、「どう学んだのか」（学習歴）が問われるようになる。

●進学先選びを失敗しないために

- ・現在日本には 777 校の大学があるが、入学するのはそのうちの 1 校である。そして、せっかく入学した進学先を辞める人が毎年 8 万人いる。中退の理由には「勉強に興味や関心が持てなかった・学校生活に適応できなかった」などがあり、自分が納得できる学校選びの大切さがこのことからわかる。
- ・たとえ学部が同じでも、先生の教え方、施設・環境、カリキュラムなどは学校によって違う。自分にとって大切なポイントが分かったら、同じ系統の中で比較し、自分に合う学校を選択すること。それには学校パンフレットが便利である。入試情報、授業内容や制度、就職状況や学校生活などの情報が掲載されていて、学校を詳しく知ることができる。

●受験勉強のスタートを切ろう

- ・普段の定期テストと違い、大学入試の試験範囲は高校までで習った全ての範囲である。毎日の学習時間をきちんと取り、普段からの授業に集中して取り組むことが大切である。
- ・受験勉強の開始時期としては、現役合格者は遅くとも 2 年生 3 学期にはスタートを切っている。競争相手は全国の高校生。ライバルと戦える学力を身につけるためにもいいスタートを切ることが大きなポイントとなる。
- ・“これ「で」いい”ではなく、“これ「が」いい”を常に考え、これからは自分で決めて自分で動くことが大切である。

このたびは、多くの保護者の皆さまにご参加いただき、第 2 回保護者会を無事に終えることができました。ご協力ありがとうございました。

当日はお忙しい中、丸尾先生をはじめ、各クラスの担任の先生方には大変お世話になり、心よりお礼申し上げます。